

収納・新提案「エブリデイ」

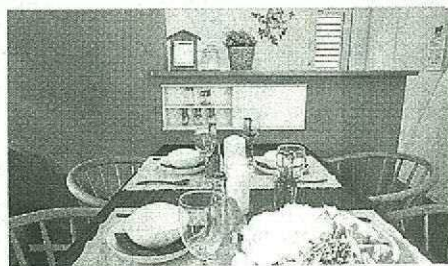
モノの居場所を考える

ポラス暮らし科学研究所

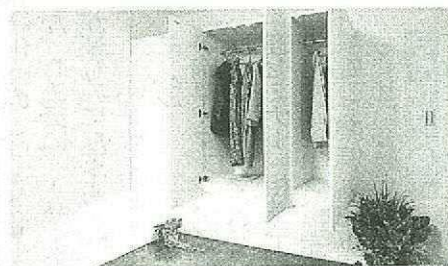


開発した野村聡子さん
(左)と小島明子さん

「ポラス暮らし科学研究所」のデザイングループは、収納スペースの新提案「エブリデイ」を開発している。これは日々出し入れする小物や洋服などをきちんと整理整頓することが、現実の暮らしを快適



キッチンカウンター下がワイドニッチ



空間に浮遊する感じフロートボックス

に送るためには不可欠という発想から生まれている。

「外で働く女性が増え、家事や子育てがしやすい住まいが求められています。毎日手にする小物の置き場所をしっかりと決めておくことがとても大切」と語るのは同グループ係長の野村聡子さん。

例えば、ダイニングテーブルの上は箸立てや調味料、ちよつとした雑貨などが日常的に置かれていて意外に片付かないもの。それらを壁の中に一括収納しテーブルを広く、きれいに使うために考案されたのが「ワイドニッチ収納」。

左右半分どちらかが開いている一枚引き戸で、左側は背の低い瓶などがたっぶり入るよう中段に仕切りがある。壁に吊り下げる方式の「フ

ロートボックス収納」は、空間に浮遊する感じがとてもおしゃれと好評だ。ボックス下に照明器具を取り付け、間接照明を楽しむこともできる。

「何も置かないスペースに光を当てて楽しむ、一見もったいないようですが、そうしたゆとりがストレスをなくしてくれます」と語るのは同グループ主任の小島明子さん。

2人は年2回、ポラスの既存客の自宅を訪問し、どんな収納スペースが欲しいかなどのヒアリングを行っている。そこで痛感するのは「日常」の大切さだ。普段使うモノだからこそ、それらをいかにスマートに出し入れできるかが、働きながら家事もしなければならぬ女性を支える大きな力になっているという。